

(様式第1号)

| | |
|-----------------|---------|
| 研究No. (記載不要) | 20-文学-1 |
|-----------------|---------|

平成20年度配分 研究成果の概要

| | | | | | |
|-----------------|---|--------|--------------------|--|------------------------|
| 研究名 | ウェールズ大学との交流に向けての基礎研究 | | | | |
| 配分を受けた特別研究費 | 文化政策学部長特別研究費 | | | 2800 千円 | |
| 研究者氏名 (代表者) | 学部名 (研究科名) | 学科名 | 職 | 氏名 | 共同研究の場合の分担 |
| | 文化政策学部 | 国際文化学科 | 教授 | 鈴木 元子 | 語学研修・交流留学プログラムの策定 |
| 共同研究者 | 文化政策学部 | 文化政策学科 | 教授 | 森 俊太 | 「アウトドア教育」と「地域開発」の分野の研究 |
| | 文化政策学部 | 芸術文化学科 | 教授 | 梅若猶彦 | 演劇の分野における教育研究交流 |
| | 文化政策学部 | 国際文化学科 | 准教授 | 美濃部京子 | ウェールズの民間伝承の研究 |
| | 文化政策学部 | 芸術文化学科 | 准教授 | 中尾 知彦 | トリニティ・カレッジをめぐる芸術環境の調査 |
| | | | | | |
| 発表の方法 (予定で可) | 1 紀要 『静岡文化芸術大学研究紀要』 「ウェールズの民間伝承研究と民俗学博物館」(仮題) | | 号数 | 第 10 号 (2010年3月発行) (頁～頁) | |
| | 2 学会等での発表 別になし | | 発表日 (発表 予定日) | 平成 年 月 日 | |
| | 3 その他 発表の方法: ①第1回学内研究会 ②第2回学内研究会 ③交流協定締結式 ④トリニティ・カレッジでワークショップと演劇指導、上演(現代劇“Italian Restaurant”) | | 発表日 | ① H20年6月5日 ② H20年10月2日 ③ H20年9月23日 ④ H21年3月23-28日(上演は28日) | |

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

【鈴木】夏期の語学研修のプログラム策定、交流留学における英語「ファウンデーション・プログラム」の調査研究、ウェールズの文化と周辺地域のフィールドワーク。

【森】英国ウェールズ大学トリニティ・カレッジと本学の今後の交流分野として、アウトドア教育と地域開発が挙げられる。この両分野の教育や研究の現状について詳しく調査研究し、より具体的なプログラム案を作成する。

【梅若】学術交流協定締結大学との研究交流

【美濃部】ウェールズ文化について、特に民間伝承を中心に基礎的研究を行う。

【中尾】昨年度より実施しているトリニティ・カレッジとの交流に関連し、トリニティ・カレッジをめぐる芸術環境(Trinity Arts FestivalやCultural Enterprise Centre、Theatr Genedlaethol Cymruなど)の調査をする。

(研究の実施方法等)

【鈴木】学内研究会の開催、文献収集、トリニティ・カレッジ訪問、ウェールズ視察

【森】アウトドア教育と地域開発の2分野の教育や研究の現状について、トリニティ・カレッジや他の大学のシラバスや関連文献の収集、関係者への聞き取り、関連学会や研究会への参加などにより、情報を収集し分析する。

【梅若】現代劇「Italian Restaurant」の上演と、そこに至るまでのリハーサルでの教育

【美濃部】文献収集及び、現地を訪れ、その文化に直接触れるとともに、民俗学研究の中心であるNational Historical Museum (前 Welsh Folk Museum)において、資料収集やその整理・保存などについて情報を得る。

【中尾】文献収集、トリニティ・カレッジ訪問、施設および公演等視察、インタビュー。

(得られた成果等)

【鈴木】2回にわたる学内研究会の開催。交流協定締結式のための準備、トリニティ・カレッジ訪問に際してのコーディネートとサポート(9月)。語学研修及び交流留学募集説明会資料の作成。国際交流委員会での報告。平成 21 年夏実施の語学研修プログラムの詰めのための会議出席と、TUC の学長・学部長・学科長たちとの面談(3月下旬～4月初旬)。

【森】地域の歴史的建造物や市民・文化交流施設などの見学・体験・参画活動が効果的であることが分かった。また、少人数グループ編成による体験型学習プロジェクトが、言語能力のあまり高くない学生参加者にとっても、異文化コミュニケーション・理解に有効である事例が多くみられた。

【梅若】現代劇は成功裏に終わった。

【美濃部】National Historical Museum ではアーカイブ担当の Lowri Jenkins さんから収集の歴史や資料の整理・保存について興味深い話を聞くことができた。また、ウェールズの民間説話研究の第一人者である Robin Gwyndaff 氏にも会うことができ、文献の紹介などを受けた。研究成果は紀要に発表する予定。

【中尾】トリニティ・カレッジは、おかれた環境やミッションにおいて本学と類似している点がいくつか見受けられた。本研究を基礎に、日本の大学の芸術文化への関与のあり方や大学経営との関連について、さらに分析・考察する。